

松山市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

農業従事者の高齢化、後継者不足が急速に進行し農業の担い手不足が深刻化する中、本協議会の推奨する各農産物の作付面積も減少傾向にある。

また、松山市の山地丘陵地帯では、未整備な圃場が多く、狭小不整形な農地であるため作業効率の悪さから作付面積の拡大に繋がらないなどの問題を抱えている。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

国が一定のめどとして掲げている平成29年産までは、市から配分される生産数量に従い、配分面積以内の作付を推奨していくこととしている。平成30年産以降は、国の需給見通しなどを踏まえつつ地域の気候風土を活かした適地適作を基本とした高温耐性品種の導入を推進し、良品質米・売れる米の生産を目指す方針である。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米・米粉用米

数量払い導入に伴い、制度をより有効に活用できるようメリットを周知することにより、取組参加者の増加を図るとともに、多収性専用品種を導入する等生産性向上に向けた取り組みを推進していく。

イ WCS用稲

生産調整の達成に向けた取り組みとして推奨していくとともに、取組者の増加を図る。

ウ 備蓄米

米の直接支払交付金への取組参加者が、生産調整達成のために実施する備蓄米への取組を支援する。また、水張面積維持等のためにも取り組む。

(3) 麦、大豆、飼料作物

本協議会の管内における麦・大豆・飼料作物の生産者数は、全体的に少数である。

かつては麦の産地であった地域でも、高齢化や担い手不足による生産量の減少が顕著であり、大豆・飼料作物の生産量も同様に減少しているが、経営所得安定対策等を有効に活用し、生産者および生産量の維持・増加につなげる。

(4) 野菜

- いちご・・・地域の特色ある立地条件を活かしながら、小面積で高所得が得られる施設型農業として支援する。
- なす・・・重点夏秋品目の1つであり、「まつやま農林水産ブランド」にも認定されているため、高品質生産に取組み高収益化を図る。
- トマト・・・高品質・安定生産を推進し、高収益化を図る。
- ピーマン・・・新規生産者の掘り起しと、若い生産者の規模拡大を推進し生産面積の拡大を図る。
- 白ネギ・・・軽量野菜で計画的な出荷ができるため、比較的高齢者でも栽培できる作物である。また、県の特別栽培農産物認証制度の活用により付加価値農業を推進する。

- さといも・・・実需ニーズを捉えつつ、良品種の導入を図り、生産の維持・増加を目指しながら安定供給に努める。
- おくら・・・収穫、集出荷作業との労力軽減のバランスを勘案しながら、生産の維持・増加を図る。
- スイートコーン・・・栽培に手間がかからないという特性を活かし、栽培者の増加を促すと共に、土づくり作物（クリーニングクロープ）としても生産を振興する。
- 枝豆・・・省力化・低コスト化対策を進め、安定した所得が見込める作物として、産地の維持拡大と、きめ細かい市場対応により販売価格の確保を図る。
- 施設軟弱野菜・・・施設栽培の導入により収益性の高い品目の選定と、土づくりによる安定供給を進める。
- きゅうり・・・夏場の高所得品目と位置付けて生産振興を行い、栽培面積、生産数量の拡大を図る。
- シソ・・・周年で安定収量を確保できるよう作型分散を行うと共に、契約販売の維持・拡大に努め、顧客の確保と価格の安定を図る。
- すいか・・・地域の特産品として、また、こだわり商品としての位置づけを維持しつつ、基本管理の徹底と生育後半までの草勢維持管理により、正品率向上を図り面積拡大に努める。
- アスパラ・・・戸々の経営状態を考慮し、施設栽培又は露地栽培を新規栽培者へ提案し面積の拡大を図る。その他、定期的に改植および圃場替えを行い反収量の向上を目指す。
- キャベツ・かぼちゃ・・・水田を活用した土地利用型作物で、作型によっては大規模経営が可能となり、他の作物に比べ作業の手間も少ないことから、経営規模の拡大を図るうえで有効な品目として推進していく。
- その他野菜・・・産地化等も含め、地域農業の特徴を活かした生産を振興し、農業者の所得向上を図ると共に、市場のニーズを注視しながら需要に応じた生産を推進していく。

（５）花き、花木

露地栽培では新テッポウユリや花木等。施設栽培では、球根ユリやデルフィニューム等の生産拡大を図る。また、新規品目の導入と普及に努め、市場の求める時期に安定供給できる体制づくりを進める。

（６）不作付地の解消

新たな担い手の発掘や、農業者への農地情報の提供等の取組を強化するとともに、人・農地プランなどの施策を有効活用し、不作付地の解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 27 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	1,754.2	1,716.0	1,704.0
飼料用米	2.8	5.0	7.0
米粉用米	0	0.2	0.2
WCS 用稲	0.4	0.4	0.6
備蓄米	1.8	5.0	5.0
麦	90.5	100.0	105.0
大豆	3.2	3.2	3.2
飼料作物	8.2	8.3	8.5
その他地域振興作物			
野菜	336.7	339.0	340.1
・アスパラガス	2.9	3.1	3.5
・いちご	9.4	9.6	9.7
・なす	17.9	18.1	18.2
・トマト	4.8	5.1	5.3
・きゅうり	8.5	8.8	8.9
・シソ	0.6	0.6	0.7
・すいか	7.7	7.7	7.7
・ピーマン	0.8	1.1	1.2
・ねぎ	3.1	3.2	3.5
・さといも	13.0	13.2	13.5
・おくら	0.4	0.5	0.6
・スイートコーン	2.1	2.2	2.3
・えだまめ	2.5	2.8	2.9
・施設軟弱野菜	5.6	5.6	5.6
・キャベツ	4.3	4.3	4.5
・かぼちゃ	1.7	1.7	1.8
その他振興作物			
・花き	11.2	11.3	11.3
・花木	17.0	17.1	17.1

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 27 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	麦	「生産性の高い主体による産地化」	イ	作付面積	84.1ha	92.0ha	95.0ha
2	18 品目 ^注	〃	イ	〃	21.8ha	25.7ha	26.0ha
3	飼料用米	〃	イ	〃	2.8ha	5.0ha	7.0ha

※「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2（5）の ア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。

（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

- | | | |
|---|--|---|
| { | ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
ウ 地域特産品など、ニーズの高い産品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組 | } |
|---|--|---|

注：アスパラガス・いちご・なす・トマト・きゅうり・シソ・すいか・ピーマン・ねぎ・さといも・おくら・スイートコーン・えだまめ・施設軟弱野菜・キャベツ・かぼちゃ・花き・花木